

2023 年度学生による後期授業評価アンケートへの 教員からのコメント

■ 基礎演習 II

受講者 13 名に対して回答が 14 件となっており、必ずしも正確な回答率を反映していないことが伺える結果となりました。

授業の難易度を尋ねた設問 6 で 35.7%が「とても難しかった」、42.9%が「難しかった」と回答していることから、前期の「基礎演習 I」に引き続き、学生にとって高度な内容の授業を進めてしまっていた可能性が高いと示唆されます。

一方で、授業全体をよく理解できたか尋ねた設問 14 では、前期は 26.7%が「そう思わない」と回答し、「強くそう思う」が 0%だったのに対して、今回は逆に「そう思わない」が 0%で、14.3%が「強くそう思う」と回答する結果となりました。したがって一定程度、前期の反省・対策として、学生の理解や納得が得られやすい教材を豊富に作成・使用するように準備の段階から留意したり、課題の手順や例示をより具体的に行ったりした効果が現れたと思われます。

主な課題としては、設問 17 の「難しいと思った課題の内容」(複数回答)に対して、回答 8「プレゼンテーション(発表)」が 71.4%(10 件)となった点が挙げられます。

ただし、その主な要因は必ずしも教員側の準備や対応の問題とは限らず、高校時代のコロナ禍(や不登校、通信制の環境など)の影響もあって、対面状況でのグループワークや発表経験自体が少なく、もともと苦手意識の強い学生が多かった点も挙げられると考えられます。

実際、授業への感想・意見を尋ねた設問 19 では「人前に発表するのが恥ずかしいかった。」という回答が、授業での学びや反省を尋ねた設問 20 では「発表などで嘸まずに話せるとようになりたいと思った。」という回答が見られました。

よって、通常の対策に加えて、世代的な特殊性も加味した対策が必要になる可能性も示唆されます。

なお、一部の提出物の「〆切が早すぎた」という点が、課題の難易度を高めに感じさせてしまう効果も意外に高かった可能性もあります。

実際、設問 19 で「これから就職しても、使うような技術や知識をたくさん得られてありがたいと思った。個人的には、振り返りシートの締切が早すぎると感じた」や「振り返りシートの提出期限が金曜日までだったことが辛かった。全体の提出状況も悪かったので、無理があったと思う。次の代では期限を伸ばすべきだと感じた。」といった回答が、設問 20 では「反省 振り返りシートが前期の基礎演習 I より大幅にできなかった」といった同様の回答が、多く見られました。

対策として今年度から、当該提出物の〆切を二段階に設定することとし、早期提出者には加点する形を取ることにしました。